

# 五月の幼児の生活

東京府女師附屬幼稚園

卜部 たみ

五月の主材。

○五月の節句

○遠足及戶外遊び

○五月の誕生會

○五月の庭園及其他

四月に種子蒔をした芽生えの培養

養蠶、鶏の卵の孵化及その飼育、渡り鳥について(燕)

昆蟲類及五月の花及草花

櫻、梨、桃の毛蟲

附。お辨當の樂しみ。

新入幼兒は入園後漸次希望の者から辨當を持つて來初め、本月初めから殆ど全部揃つて辨當を持つてくる様になる。

幼一五月の生活

曜 週	第一	第二	第三
1	<p>五月人形飾付 (準備作り、人形運び飾り付等) 鯉職を立てる。 雛段の前にて五月人形にいつての談話(金太郎) 唱歌(金太郎) 遊戯(同上及其他) 自由畫(金太郎)</p>	<p>自由あそび 花壇の手入(草むしり、毛蟲退治) 五月人形についての談話(つづき) 千なりべうたんの話 同上(自由畫) 唱歌、遊戯(金太郎、牛若丸其他) 節句の會の裝飾物製作(手技)</p>	<p>自由遊び 裝飾物製作(手技つづき) 唱歌遊戯、鯉職(新授)及其他練習 五月人形に就ての話つづき 神武天皇の御話 自由遊び 毛蟲退治、蝶に菜をやる、集鶏の觀察、金魚、おたまじやくし等の觀察。</p>
2	<p>昨日の話(自由談話) 自由遊び(まりなげ、籠まり)の觀察(標本) 同(同心町停留所前郵便局の軒) 燕の旅行(談話) 唱歌、遊戯 自由遊び 五月人形片付</p>	<p>音羽護國寺行き(戶外保育)往 小學校門―大塚高師庭― 窪町―仲町―護國寺 復 電車</p>	<p>自由繪、手技、談話の間に昨日の護國寺行きの發表及その整理。 唱歌、遊戯(燕、其他) 粘土、自由製作 (準備粘土の扱ひ、後始未等の注意)</p>
3	<p>自由遊び(同前) 往來の觀察(本校門前) 電車、自働車、荷車、人力車、行人、犬、牛、馬、商家、其他 自由畫及手技談話に發表 唱歌、遊戯(燕其他)</p>	<p>自由遊び 石拾ひ。 準備―標準の石、バケツ、トロッコ、目簾等 石拾―好みの場所について拾ふ。標準の石と比べて拾ひ、運搬。洗ふ。ふく。石ならへ。石積み、石やさんごっこ 唱歌、遊戯(同前)</p>	<p>自由遊び。 石ひろひつづき。 粘土(自由作) 談話(遠足) 唱歌、遊戯 燕、夕暮の唄、鯉職、金太郎、ひばりはうたひ、鳩、牛若丸等</p>
4	<p>日照のこと(談話) 幼児の自由發表 誕生會のおくりもの作り(繪、折紙、剪紙、貼紙) 唱歌、遊戯、 (昨日の仕度、おさらひ)</p>	<p>誕生會の準備(二組にならぶ) 誕生會 自由遊び 運動遊技 兎と龜、ガンガール、象、ボールオクリ、ボール投げ</p>	<p>自由遊び、砂場、土いちり 土ほり、蟻さがし、蟻の(巢)さがし、あふら蟲さがし 花壇の手入(害蟲とり) 談話(やぎと蟻) 幼児談話 唱歌、遊戯(既授練習)</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>自由遊び (同前) 五月人形に就ての話つづき 談話 (鐘起様、其他) 五月のお節句に就て (談話) 幼児の自由發表 お節句の町の觀察、 唱歌、遊戯 (鯉轍其他)</p>	<p>端午節句祝會 (遊戯室) 準備 (椅子はこび) 開會の辭、談話 (雀と鯉轍其他) 唱歌、遊戯、本よみ、著 音機、開會の辭 小學校の節句の模様になに いく 小運動會、轍くらべ其他 の催をみる。</p>	<p>昨日のお節句に就て (談話) (幼児の自由發表) 木馬遊び、シーソー、其他 自由遊び 小學校及本校内觀察。 蠶、金魚、鶏、毛蟲、 (根、おたまじゃくし、) 其他</p>
2	<p>燕のこと。 燕チイチブ (談話) 燕 (唱歌遊戯) 燕の塗繪、剪紙、折紙等 (手 技) 燕の觀察。 清水谷停留所前菓子店の 軒</p>	<p>花壇の世話 つみじ、チヌウリツブ、ヒ ヤシンス、各自種蒔した 鉢の世話。 飼育動物の世話。 チヌウリツブ其他作り。 クレール、ペーパーにて造花 自由繪、塗繪等 自由遊び (ま、こと、其他) 唱歌、遊戯 (燕、其他)</p>	<p>自由遊び (砂遊び其他) 色合せ 音と聲のきくわけ遊び いもむしころく (唱歌、遊 戯) 兎と龜のかけく ら。 象、カンガールとび 自由遊技 リレー</p>
3	<p>遠足 陸軍戸山學校</p>	<p>遠足についての自由談話 繪及手技其他に發表及その 整理。 唱歌 (既習のおさらひ) (午前中のみで保育終る)</p>	<p>花壇の手入 飼育動物の世話。 眞鶏觀察。 談話 (鶏と卵) 身體検査</p>
4	<p>自由遊び 園外散步   韓哩學校行。 久野町   博文館附近   御 殿坂   華哩學校 運動 遊具にてあそぶ。 遊戯、唱歌。 其他觀察事項 幼二組参照</p>	<p>自由遊び 著音器をきく。 音と聲のきくわけ遊び。 物まはし、物真似、色 (あて、ボタンかけ等) 遊び 豆細工 (門及自由) 談話 (ひきがへるぶつ)</p>	<p>自由遊び 傳通院行き。 道路左右歩行の區別、毛 蟲、蠶、お宮參詣、墓鐘 等の觀察。 明日の日曜のこと (談話) 唱歌、遊戯 (練習)</p>

曜 週	第 一	第 二	第 三
1	<p>談話 (日曜の話、保母及び幼児、五月節句の悦びについて)</p> <p>五月人形飾り。尋一と幼二と共に炭末で段をつくり、各兒仕事を分擔して飾付す。</p> <p>鯉織を(紙の鯉、風向、揚立てる)げ方等觀察。</p> <p>自由畫(鯉織の畫になる)</p> <p>唱歌、遊戯</p> <p>鯉、牛若丸、金太郎、其他</p>	<p>自由遊び(同前)</p> <p>談話(金太郎、牛若丸、金太郎、其他五月人形に就て)</p> <p>自由畫及手技(五月節句室内裝飾物をつくる)</p> <p>養蠶(桑の葉を蠶に與へる發育比較觀察)</p> <p>其他(飼育動物の世話)</p> <p>唱歌、遊戯(同前)</p>	<p>園内散步</p> <p>ご、梨、あやめ、濱菊、あづま菊、コスモス、けいとう、だりや等の芽の觀察</p> <p>蠶糞に卵を抱かせる。</p> <p>蟻の穴、毛蟲、油蟲さがし。</p> <p>談話(五月人形に就てのつづき)</p> <p>唱歌、遊戯(同前)</p>
2	<p>日曜の話、繪に發表。</p> <p>談話(燕の話についての説明、燕の觀察(二組におなじ)おたまじくし觀察(蛙になりかかると。蛙になびよん太郎の話、びよん太郎かきた。燕、びよん太郎、其他)</p> <p>唱歌、遊戯(燕、びよん太郎、其他)</p>	<p>音羽護國寺行き。</p> <p>自由遊び</p> <p>自由畫、粘土、折紙、剪紙等により護國寺行についでの發表及其の整理。</p> <p>唱歌(燕、其他)</p> <p>遊戯(汽車)</p>	<p>自由遊び</p> <p>自由畫、粘土、折紙、剪紙等により護國寺行についでの發表及其の整理。</p> <p>唱歌(燕、其他)</p> <p>遊戯(汽車)</p>
3	<p>自由遊び(花壇手入)</p> <p>校庭散歩、笹の葉の觀察。</p> <p>(笹舟を作り池にうかし)て遊ぶ</p> <p>唱歌、笹の舟(新授)</p> <p>遊戯、汽車、其他</p> <p>豆細工(舟作り)及自由</p>	<p>園外保育(牛天神及傳道院郵便あそびに入る)</p> <p>郵便あそび(ポスト、ガパン、繪ハガキ、郵便局)</p> <p>(積木にて)等製作</p> <p>葉書(積木にて)の交換、配達、スタンプ押し等</p> <p>唱歌、色の舟</p> <p>遊戯、色の舟(教授)</p>	<p>自由あそび(笹舟)</p> <p>談話(靴屋と小鬼)</p> <p>自由畫(談話の内容發表)</p> <p>運動(走り巾着のまね、カンガール、象の歩き)</p> <p>方、籠、ボール、其他)</p> <p>唱歌、遊戯(笹の舟、其他)</p> <p>お話遊び</p> <p>明日の遠足にいての話</p>
4	<p>自由遊び</p> <p>談話(日曜の話、保母及幼兒)</p> <p>誕生會の仕度</p> <p>室内裝飾</p> <p>お土産作り(風車作り)</p> <p>唱歌、遊戯(練習)</p>	<p>誕生會開會(前月參照)</p> <p>幼兒自らプログラム作る</p> <p>自由遊び</p> <p>(鶏の卵孵へる)</p>	<p>自由遊び</p> <p>(リレー、ボール投げ、其他)</p> <p>運動(正直な下男)</p> <p>繪(内容の一場面)及同上内容表現自由畫)</p> <p>唱歌、遊戯練習</p>

曜 週	第 四	第 五	第 六
1	<p>節句のかざりもの作り及仕度<small>(手技)</small>のつづき お土産、室内装飾 明日のお節句の話<small>(談話)</small> 會の仕度<small>(プログラム作り)</small> 唱歌、遊戯、話、お話し遊び等の練習<small>(全體兒)</small></p>	<p>自由遊び<small>(同前)</small> お節句の準備<small>(尋一幼兒會同)</small> 女兒より男兒へ悦びの挨拶 唱歌、談話、遊戯、お話し遊び レコード、ピアノ等 閉會 自由遊び お土産を持ちかへる</p>	<p>自由遊び<small>(花壇の手入、飼育動物の世話、蠶の観察等)</small> 談話<small>(魔法使ひのおはあさん)</small> 右の内容發表表 自由畫、剪紙による<small>(手技)</small> 唱歌、燕、其他 遊戯<small>(同上)</small></p>
2	<p>自由遊び 園内散步<small>(昆蟲採集)</small> 折紙で昆蟲を入れるものを作る 唱歌、遊戯<small>(汽車其他)</small> 談話<small>(乗物のいろく)</small>、繪及繪本、雜誌蒐集陳列し觀させしむ</p>	<p>談話<small>(汽車について)</small> 園外保育—安藤坂—諏訪町—飯田町驛 電車、汽車の發着及發着をみる 汽車遊び<small>(手技)</small>、唱歌、遊戯、觀察 驛名をかいて所に貼る者、紙木で驛を作る者、切符、荷物等の製作等の幼兒活動 動あはらる 花壇の手入、小鳥の世話</p>	<p>自由遊び 昨日の話<small>(汽車の繪の展覽會)</small> 唱歌、遊戯、練習</p>
3	<p>遠足 陸軍戸山學校</p>	<p>自由畫<small>(遠足についての繪とき及其他)</small> 談話 遠足の話。 小鳥に、小鼠、勝づめ 蓄音器をきく</p>	<p>自由遊び<small>(飼育動物の世話、花壇の手入、砂場、積木、繪本よみ、きしやご、各自の姓名發表まはし)</small> 身體検査</p>
4	<p>自由遊び 園外散步<small>(文館附近通過、印刷工の働きぶり)</small> 松の花、蜂、菜の花、萩の芽、銀杏の花、箱庭、菘池、鯉、鮎、金魚、水面の波等の觀察 遊戯、動物木、山、見晴等にてあそぶ。</p>	<p>自由遊び<small>(室内遊び)</small> 物真似してあてる<small>(表情による)</small> ユプロンのぼたんかけ 外し 色板ならべ、色さがし 物まはし 繪本朗讀 樂隊 唱歌、遊戯練習</p>	<p>自由遊び<small>(同前)</small> 花壇の手入 芽生の植出し 自由畫及手技 談話<small>(明日の日曜のこと)</small> 唱歌、遊戯、練習</p>

## 種なげ遊び

生活全體が遊びである幼児にとつては、子供をよく遊ばせる事、いひかへればその本能の醇化即ち幼児の生活をより良く發揮せしめる事が教育である事は、今更申す迄もない事で御座います。

特にその精神生活は主として感覺の世界に限られてゐる此の時代には、感覺の練習が最も必要な事で、私共はいつも子供の本能活動の現れ、其の傾向、その種類等に注意しどんな感覺練習が行はれてゐるか、どんな働きに最も興味をもつてゐるかといふ點を考察してその指導に工夫しなければならぬと存じます。つまり子供にとつて一番興味ある事は、多くその心身の發達の爲めに練習の必要ある事なので御座います。幼稚園及び尋常一年の子供にとつて、多くの遊びの中でも、たゞ、ける、走る、登る、投げる等の事に特に興味を持つ事は日常よく氣附く處で御座います。

昨今は大分傾向も變り進歩して來た様ですが、兎角幼稚園遊びといふと、多く消極的で幼兒の事だから、あぶなくない様、けがのない様との心配のみ重んじられてゐたせいか、自由遊びの他は先づ所謂お遊戯位で、其の幼兒相應の最も適當した運動遊技の方面は、殆ど考究されてゐなかつた様に察せられます。又幼兒の運動感覺練習についても、日常保育中各一人一人の幼兒についてどれ位考へられ工夫されてゐるか等に就ても同様の感があつた様に存じます。どこ迄も幼兒の身心の發達に心して、眞の生きた子供に接しながら、いつか知らず／＼の間に大人のあたまで作りあげた子供として見過す様の事のない様意をもちひ度いと存じます。

貧しい私の經驗からみて、日常非常に幼兒の喜ぶ運動遊戯をあげますと、シイソウ、廻旋機、ブランコ其他の機具を使ふものは勿論として、飛び

くら(幅とびのまね、其他のとび方)、どんく橋、助木登り、鬼ごっこ、綱引き、徒競争、ジャンケンとび、ボール送り、毬投げ、フットボール等御座います。今それらの中から毬投げ遊びについて私共の取扱つた例を申述べます。おそらく毬はどなたもが扱つて居られる事で、別に新しい事でもないのですがほんの一例として記す事といたします。

用具。毬はゴム毬、布製の毬等何れも適當ですが是には、赤、白二種の木綿布で中味はもみ殻又は綿、古布を入れた直径二寸位のものを用ひて居ます。用意する場合は赤白各々少くとも一組の幼児の數はほしいと思ひます。

籠毬をする時は、籠が必要ですが、是は竹製又は針金製の物等適當で、それを支へる臺は高さ一米以上のもので、なほ高低を自由に出来るものがよいと存じます。その設備の出来ない間は

テエブルの上に火鉢の金網をさかさまにし、周圍に煉瓦積木をかこつて代用にして居りました。

なほ毬なげ遊びと申しましたが、單になげばかりでなく、毬を使つて非常に澤山の遊びが出来ます。毬さがし、毬とり替へ、毬はこび等總稱して「毬遊び」とでもいふものと「毬投げ」籠毬の凡そ三種にわけて二つ三つ宛例をあげる事に致しませう。

#### 遊 び の 1 (毬あそび)

○全體を一行にし其の中央へ少しく小さい圓を書き、其の中に赤白の毬を四十宛位(人員の數より少しく多く)集め置く。

オルガンの合圖により、早く或は緩く曲につれ歩む間に急に奏曲を止める。それと同時に中央に入り、毬一個宛取つて早く舊の位置に歸る。毬をとつて戻つて又繰りかへす。是は極く幼稚な單純

な事てあります。最も小さい組の幼児には案外面白いものであります。程度の進歩につれ、毬と人員との關係によつて、「白を一つ」或は「赤二つ」又は「白と赤と一つ宛」等の號令又は約束により順次に行はせませす。

○二列圓形で外側は白、内側は赤の毬を各自が持つて、内外圓各々反對の方向に行進中、奏曲の止まる合圖に直ちに外側と内側の各兒が持つてゐる毬をとりかへるこの時兩手に持つ方を喜ぶのはいふ迄ありません。曲がなると又歩み出して是をくり返します。

○全兒を赤白の二組に分け、二米位離れた二つの線上にむかひ合ひに集らせる。各組は其色の毬を一つ宛もつて集る。次にその毬を高くあげて各組が番號をかけ數を調べる。「ヨーイ、ドン」の合圖で各自が持つてゐた毬を好きな處へかくす。隠せたら直ちに舊位置に戻る。次の合圖に依り各兒は

反對の組の毬を探しまはる。此の時一人で數個さがし出してくるくの、一個も持たずに集る者もある。兩組舊に戻つた時、前の様にして各組の毬の數を調べる。どちらが多いかを考へしめて勝負定まる。

程度の進むにつれ毬は兩手にする事も出來ます。場所は何處でも出來ますが、戸外の時は大體範圍を約束しおく事。遊戲室内等するのが最も都合よく、此の時は室内の兩側の椅子に腰かけさせ中央に集めずともよいのであります。

## 遊びの 2

○各兒一個或は二個宛毬を持つて、圓又は線に集る。「用意ドン」の合圖で出來るだけ高く上に投げる。落ちたのを拾つては自由に繰り返す。

○線上に並び出來るだけ遠くに横に投げる。目標を定めしめるか、毬は六米位離れた處に線を引きその線を越して毬のいく様投げる。漸次程度の進



むにつれ距離を大にし、數人宛競争的にするか、又は赤白に分れて勝負をします。」

單に投げる是れだけの事ではありません。自由に投擲本能を満足する事の出来る幼児にとつては誠に愉快な事であるらしいのであります。始めはたと投げる事それだけが面白い程度であるが、だん／＼には距離に對する目標もおぼろげながら自然のうちに考へる様になります。なほベースボールスローのまね事をして興味を感じてくる様になります。

○黒板上左右に赤白各々直徑半米位の圓を書き各組の的とします。赤白の二組に分れた各兒は二個宛の毬をもつて的に對して縦列にならぶ。黒板から五米位離れた床上に兩組投手の位置を定めて書く。合圖により兩組から一人宛順に出て的をねらつて圓の中に入る様毬を投げる。投げたものは順に列の後へまはる。圓の中に當つた數を得點とし

て板上に○を記入していく。最後に各組の得點を數へて勝負をさめるのであります。

此の時自分の組の得點の合計をする事、互ひに他の組の得點の合計をする事、次に兩方の比較により、減法の行はれる事により、いつか知らぬ間に十内外の加減が會得されるのであります。數の範圍を五以下又は十以下にあるためには距離を大にし、或は距離を小にして各組の得點を増さしめ即ち毬を當り易くせしめて、數範圍を漸次にひろげて行く等は、指導者の手加減でなか／＼面白い効果が得られるのであります。又始めはたゞ矢鏢に投げてゐた子供も漸次ねらひを定め、投げ方の呼吸を體得する様になるのには感心する事、又こゝに自然の中に運動感覺練習が行はれていくのであります。

### 遊 び の 3

○中央の籠を圍んで二米位離れた處に全兒を圓形

に集める。「用意ドン」で各兒が手に持つた毬を中央の籠の中に投げ入れる。是をくりかへして練習するのであります。

○又赤白の組分けをして半圓赤、半圓は白とし前と同様周圍から毬を投げて組の得點を全體で數へ勝負を定めます。

○又此の時一定の時間即ち一分とか二分とかを定め、あふれた毬を拾つては自分の位置に戻つては投げ「止め」の合圖のある迄續けしめ最後に得點を數へる事もします。

時間と距離と數へる數の範圍との三つの關係を考慮しつゝ指導者は種々工夫加減すべき事。

○籠の兩側各一米半又は二米位離れた所に赤白の投手の位置をかく。全兒は赤白の二組に分れ各兒二個宛の毬を持つて先頭が向ひあつて投手の位置に立ち各組縦列にならぶ。合圖により兩方から一人宛毬を投げ入れる。投げた者は列の後方に廻る

全部終つた時各組の得點を全體で數へて勝負をさめます。

なほ籠の高さは一米以上凡そ子供の身長の程度とし、漸次にかへて二米又は二米半位に迄して行ふがよいと思ひます。此の高さにより、投げ方に對する工夫も自然のうちに幼兒自身する様になり又その指導も適當に行ふべきであります。

石を拾つたら投げてみる、棒を持つと叩きまわる、といふのは子供の自然で御座います。此の子供の自然性をゆがみなく伸ばしていくといふ中にいつもそれを善導するといふ事は忘れられない大切な事であります。投げる事それだけが愉快でたまらない子供の全我活動を見る時、籠の中に毬を入れようと、全ての身も心も一點に集めた眞面目な姿を見る時、何ともいへない愉快を覺えるのであります。是等の遊びによつて、本能の満足——善導、注意集注練習、運動感覺練習等を行ひつゝ

運動遊戯として體育的價值を充分にささめ得られ  
ると同時に又數觀念の刺戟——誘導——整理、即  
ち興味ある直接の事實問題によつて具體的に數と  
量との關係をさとり、主として十以下の數の系列

自然に團體的訓練を修め得られ同時に團體遊戯特  
有の興味を感じる等數限りない効果があります。  
尙指導者の熱心研究の如何により此の他どんなに  
てもよい遊戯の得られる事と存じます。

量の觀念、尋常一年に始まる前にあるべき數生活  
は殆んど此の面白い遊戯の面白味の中に行はれた  
のであります。又此の時の幼兒相應の距離に對す  
る關係、目測等をさぼるげながら意識する様にな  
つた事も認められます。幼稚園に於ける數生活指  
導については、保姆として特に考を以てゐるべき  
事でありまして、是等の遊戯或はじゃんけん取り  
其他の遊戯の中にどんなにても自然に有價値に取  
扱はれるので御座います。毎日／＼の保育上にあ  
まり考へずにゐて、保育満了の間ぎわに抽象數の  
計算を幼兒につめ込んだりする事は、大禁物の事  
と申します。

其他全く個人孤立的の幼兒も是等の遊戯の中に